

# 脳卒中の前触れに気をつけましょう

神戸掖済会病院

脳神経外科部長 の野 がき垣 ひで秀 かず和

## はじめに

みなさんは、「長生きはしたいが、呆けたり寝たきりになるのは嫌〜だ!」と願っていると思います。この願いを達成するためには、寝たきりとなる原因の最も多い脳卒中にならないことが肝要です。

脳卒中は以前は中風・中気ちゅうぶ ちゅうきといわれており、ある日予告なしに突然に襲ってくるものとして恐れられていました。まさに、「風あたに中る」ということです。

脳卒中にはいくつかの種類がありますが、大きく分けると脳の血管が詰まる脳梗塞と、脳の血管が破れて出血する脳出血やくも膜下出血に分けられます。最近が高齢社会となり脳卒中といえ、圧倒的に脳梗塞が増えてきました（脳卒中全体の約 70%を占めます）。

## 脳梗塞の前触れとは？

脳梗塞の 30%に「前兆発作」といういわゆる前触れが認められるということがわかっています（このような前触れを医学用語で「一過性脳虚血発作（略して TIA）」と呼んでいます）。この前触れは多くの場合数分から数十分位で症状が消失してしまいますので、まさにこの前触れ時点でどう対応するかが大きな分岐点となります。

では、脳梗塞の前触れにはどのようなものがあるのでしょうか？最も有名なものに小渕恵三元総理の例があげられます。当時

自由党（小沢一郎党首）との連立解消を決定した夜の記者会見の途中に、突然 2〜3 分間無言となってしまうその様子がテレビを通して国民の目にするところとなりました。その後再び話をされ記者会見は無事終了しましたが、その日の夜に脳梗塞を発症され還らぬ人となってしまいました。この時の無言だった数分間がまさに前触れだったのです。小渕元総理の場合は、心臓からの血の塊（血栓）が飛んで脳の血管を塞いだのです。直ぐに溶け一時は回復したのですが、その後本当の脳梗塞（脳塞栓）になってしまったのです。

前触れとしてよく知られた症状として①急に半身の上下肢の脱力や痺れをきたす、②片方の目に何か黒い幕が下りてきて見えなくなってしまう、③小渕元総理のように急に言葉がでなくなったり、また呂律が回りにくくうまく喋れない、④片側が急に見えなくなる、⑤ふらふらしてバランスがとりづらく歩きにくい、⑥突然物が 2 重になって見えてしまう、などがあります。

## 前触れ症状が出たときは？

では、これらの症状が出た場合はどうすればよいのでしょうか？治ったからもう大丈夫と自己判断することが最も危険です。脳梗塞の一步手前の状態であることをよ〜く認識してください。まずは医療機関（できれば脳卒中をよく扱っている所が良いでしょう）にすばやく受診してください。年

年齢、高血圧や糖尿病の有無、症状の継続した時間などにより、場合によっては緊急に入院する必要に迫られることもあります。

このような、発作を起こす原因として二つ考えられます。一つは、血管が細くなり一時的に血流が減少する場合で、これは動脈硬化などで起こってきます。もう一つは、心臓の不整脈や心筋梗塞後に血の塊ができて、何かの拍子に頭の血管に飛んで一時的に詰まってしまう場合です。頭に入る血管自体にも時に血管壁に血塊が生じて頭の血管が詰まってしまうことがあります。いずれにしてもこれらのことを早急に調べて対策を練る必要があるのです。

### どんな検査をするのですか？

一番中心となる検査はMRIです。すでに脳梗塞に至ってしまっているのか、まだ前触れ段階に留まっているのかの区別がつきます。またMRA（同じMRIを用いて脳の血管が描出できる機械）で血管の状態が把握できますので、血管が詰まっているのか、細くなっているのかが容易に分かります。もちろん一般的な血液検査や心電図、

CT、頸動脈エコー、心エコー、脳血流測定なども行います。それらの結果に基づき今後脳梗塞に発展しないように治療方針を決定します。

### 治療にはどんなものがあるのですか？

主なものとして、①血液をサラサラにするような薬を服用する（抗血小板療法といいます。代表はバイアスピリンやプラビックス）、②心臓からの血の塊が原因の場合は塊を溶かす薬を服用する。（抗凝固療法といいます。代表はワーファリンや最近使えるようになったプラザキサなど）、③主

要な血管が詰まっていたり相当に狭窄している場合は脳外科的な手術や血管内カテーテル治療が必要になる場合もあります。

### どんな事に気をつければ良いのですか？

では、予防は出来ないのでしょうか？予防が出来たら寝たきりにならずにすみませし、呆けたりする事なく老後も楽しく生活できるはずです。

一つは、常日頃から脳梗塞の危険因子とよばれる高血圧や糖尿病や脂質異常症などに対して、しっかりと管理を受けることが大切です。すなわち食事と運動という生活習慣に根ざした改善に取り組むことが求められます。同様にアルコールも適量とし、最近うるさく言われている喫煙に関しては禁煙しなければ社会が許さない風潮となっています。

また、生活の場で「水分補給をこまめにしましょう」、「熱いお風呂は避けて短時間で湯船から出るようにしましょう」、

「寒暖の激しい変化は避けましょう」などなどマスコミを通じて皆様良くご存知だと思います。

### おわりに

脳卒中も早期発見・早期治療が重要です。「前触れ発作」について良く理解し、治ったからよかったと安心しそのまま放置せず、一刻の猶予もない救急を要する疾患であるとの認識を持ってもらい、直ちに医療機関に相談するようにして下さい。脳卒中は一旦発症し、完成してしまうと大きな障害を残してしまいます。早めの受診があなたの寝たきりを防ぎ、健康で長生きすることにつながります。